

○伊藤 美千穂<sup>1</sup>

<sup>1</sup>京大院薬

Special Interest Group on Natural Products (SIG NP) は、直訳すれば薬学会での生薬・天然物部会のようなものということになるのかもしれないが、FIP は学会員が多数いて安定収入がある団体ではなく、予算的基盤を持たない団体であるので、SIG の活動は一般的な学会のそれとは異なっている。理想的な SIG の活動は1～2年に1回程度の Workshop の開催と FIP 年会でのセッション（薬学会年会のシンポジウムに相当）の企画・実行であると言われるが、Workshop の開催はなかなかハードルの高い活動項目である。この分野では、近年は世界保健機関（WHO）が伝統医学の有効活用に注力するようになり、また中国を中心に国際標準化機構でも東洋伝統医薬の安全性と品質担保に向けた基準作りが議論されているなど、国際的には生薬・生薬製剤類に対する関心は高まりつつある。SIG NP ではこの傾向を鑑み、毎年 FIP 年会では、各国の生薬利用の現状比較や法規制、法整備について、また副作用や相互作用情報の集約方法についてなど、テーマを決めて実務中心の各種薬剤師グループと共同でセッションを企画、実行している。来るデュッセルドルフでの FIP 年会では、WHO の伝統医薬行政に対する取り組みについての講演を皮切りに、幅広い視点で伝統医薬、補完代替医療で使われる生薬類などについて議論するセッションを予定している。